

あんずの秋季せん定と越冬病害枝等のせん除について

令和8年9月

JA グリーン長野 営農販売部 営農企画課

1 秋季せん定

(1) 目的

強樹勢樹や密植園の樹勢コントロール

冬のせん定で枝を落とすとますます強樹勢樹となる。秋季せん定で樹勢をコントロール（秋季せん定は樹勢を弱める）する。

樹勢が弱い場合、若木（定植5～6年生樹まで）の場合、栽植密度が広い（隣の樹と重なっていない）場合は必要ない。

(2) メリット

ア 効率的な貯蔵養分の蓄え

混んでいると弱い新梢の受光態勢が悪く花芽が不充実となるので、秋季せん定で光を当てて花芽の充実を図る。

イ せん定量の目安

葉があるうちに剪定する秋季せん定は、枝の繁茂状態が良くわかる。

⇒ 重なり枝の状況が、冬のせん定よりも良くわかり、暗くしている枝がわかりやすい。

ウ 切り口の癒合を促進

大枝を切り落とした場合、冬季に比べ切り口の癒合が促進され、胴枯病の感染部位を減らせる。

※ただし、胴枯病菌は秋に感染が拡大するので、せん定の切り口は必ず癒合剤を塗布する。

また、胴枯病の発生を完全に抑えることは不可能なので、ワラ巻き等を併用する。

(3) ポイント

ア 時期

芽が休眠に入り始め、二次伸長しなくなる9月上～中旬が適期

早いと・・・二次伸長 遅いと・・・傷口の癒合が劣る

イ 樹齢等

5～6年生までの若木は骨格枝の生育を妨げる強勢な徒長枝を数本間引く程度とする。

5～6年生以上の樹で、樹勢が強い場合、隣の樹と重なってきた場合に実施する。必ず徒長枝や新梢長の長さを確認してから行う。

去年も実施したから今年も実施する・隣園で実施したからウチもやる、というのは間違い。

必ず樹勢を確認してから行う。

ウ せん定量

樹勢に応じてせん定量を決定する。樹勢が落ち着いている場合、枝を落とすと凍害に弱くなる。

→若木は樹勢が強くても必要以上に徒長枝を落とさない。

→全枝量の10～20%を切る程度とする。徒長枝と太枝を中心にノコギリで実施する。

太い徒長枝や大枝を中心に落とすので、せん定量は意外と多くなる。落としすぎに注意。

エ 着眼点

明らかに来年必要でない枝（隣樹や上下の重なり枝、車枝等）を切除する。

本年生育した新梢を多く間引く必要はない。

オ せん定の手順

①園全体を見渡し、間伐、縮伐を検討する。

②個別の樹に着目し、樹勢を確認しつつ、垂主枝の配置等を確認し、必要に応じて間引く。

あんずは主枝が日焼けを起しやすいので切り過ぎない（特に北側と東側の主枝）。

③垂主枝ごとに徒長枝的な上向き枝や太い結果枝（基部枝の1/3以上の太さ）の扱いを検討し、必要に応じてノコギリで切る。この場合、切り口付近の小枝を大切に残すこと。

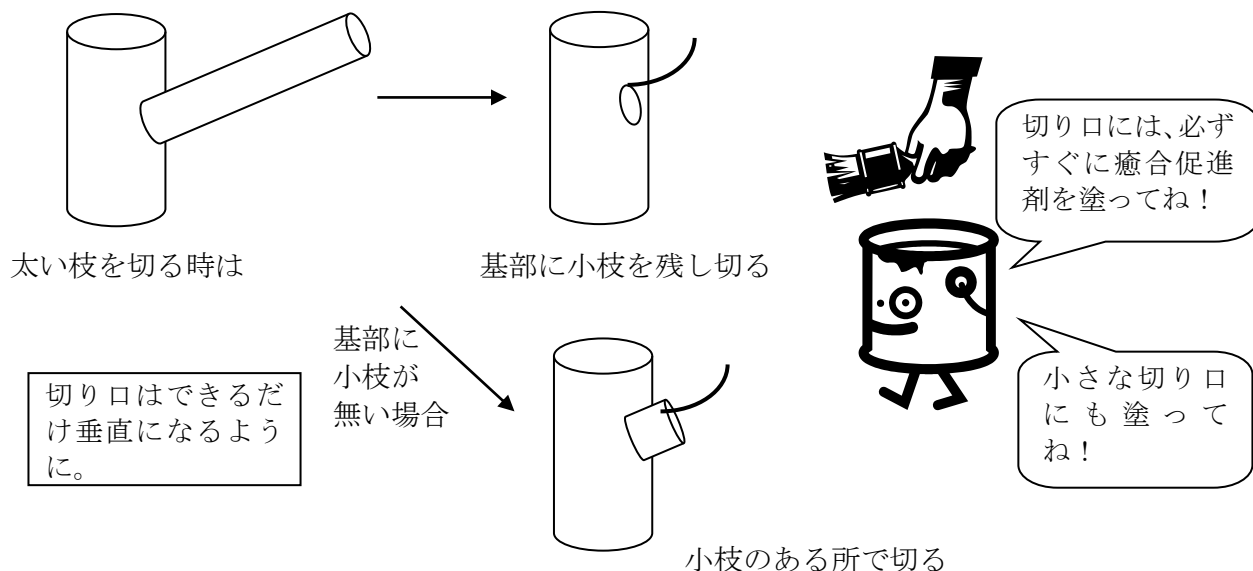


図1 太枝を切る時の注意点（癒合を促進させるための方法）

（5）癒合促進剤の塗布

- ・せん定直後に、登録のある癒合促進剤・塗布剤を、切り口に塗布する。

2 越冬病害枝等のせん除等

（1）せん除する枝

- ①灰星病により枯死している枝（新梢先端）
- ②細菌性病害の枝（春型枝病斑と夏型枝病斑）

（2）方法

- ①今年、果面障害（赤アザや細菌性病害等）や葉にせん孔が多発している樹・箇所を実施。
- ②枯死している枝、細菌性病害の枝病斑や枝が割れてヤニ等を出している枝をせん除
- ③枝が割れてヤニ等を出している太枝はトップジンMペーストを塗布

芽や葉痕が陥没している（亀裂を伴っていることも・・・）

1年生枝（緑の枝）がケロイド状になっている

春型枝病斑

夏型枝病斑

（3）細菌性病害防除

- ①秋季のICボルドー3回散布（9月中旬～風雨の前が効果的 昼間高温になる日の散布はできれば避ける）
- ②開花直前のICボルドー散布

表1 ICボルドーの登録内容

農薬名	作物名	適用病害虫	希釈倍率	使用方法	散布液量	使用時期	使用回数
ICボルドー66D	あんず	かいよう病	50倍	散布	200～700L/10a	—	—
ICボルドー412	あんず	かいよう病	30倍	散布	200～700L/10a	—	—

表2 トップジンMペーストの登録状況

作物名	使用時期	希釈倍数	使用回数	使用方法
小粒核果類	せん定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	原液	3回以内（塗布）	塗布

※ 本資料の農薬については、令和8年9月1日現在の農薬登録により作成しました。